資料 2

報道関係者各位

2023 年 7 月 11 日
ノートルダム清心女子大学
岡　山　大　学

人類史における都市の起源を探る旅
－トルコ共和国キュルテペ遺跡調査 15 年の成果－

ノートルダム清心女子大学　紺谷亮一教授（文学部現代社会学科・考古学）と岡山大学　山口雄治助教（文明動態学研究所・考古学）をはじめとする研究グループは、人類史における都市の起源を探るため、フィクリ・クラックオウル教授（トルコ共和国・アンカラ大学・考古学、キュルテペ遺跡発掘調査隊長）と共同で、トルコ・キュルテペ遺跡の調査を 2008 年に開始しました。本年は調査が始まって 15 年という節目であり、その成果について発表いたします。

＜発表のポイント＞

1.西アジア地域では人類史上初めて都市が生まれましたが、その要因をめぐる調査・研究は主にメソポタミア地方で行われてきました。都市誕生の要因として、教科書では、「ティグリス、ユーフラテス川などの大河流域で灌漑農耕が行われた」事が挙げられています。しかし、メソポタミア以外の地域では、その状況がよくわかっていませんでした。

2.そこで、我々日本隊は、2008 年からトルコ共和国中央部カイセリ県（カッパドキア地域）にて遺跡踏査を行い（走行距離にして約 1 万 km)、約 130 遺跡を発見・登録しました。これらを分析した結果、メソポタミア地方とは異なり、希少資源の交易によって都市社会が成立・維持されたメカニズムという仮説を唱えました。

3.そして、我々は 2015 年から同県にあるキュルテペ遺跡（ユネスコ世界遺産暫定リスト、世界記憶遺産）において、未発掘区域の発掘調査を開始しました。途中、地下水が湧くなど、さまざまな困難を乗り越え 2021 年に紀元前 3300 年前後の大規模建築址を発見しました。これはトルコ中央部最古の事例になるとともに、トルコにおける都市誕生の時期がメソポタミアと同様の時期まで遡る可能性が示唆されます。

4.我々の発掘調査は今夏も行われます。そして近い将来、人類史における従来の都市起源論を書き替える可能性があります。

■発表内容

＜現状＞

人類史においてメソポタミア（ティグリス川とユーフラテス川に挟まれた地域）は、最初に都市が誕生した地域とされています。それは、今から約 5000 年前の後期銅石器時代に相当

します。年間降水量が 200mm に満たない当地域では、大河の水を利用する灌漑農耕が発達しました。その為には、農地に、川から人為的に用水路を引いてくる必要があります。そして大規模な人的土木工事と水の管理が重層的な社会階層を生み出し、支配者、聖職者、軍人、市民、奴隷の出現を促したとされています。その一方、メソポタミア以外の地域では、その状況がよくわかっていませんでした。

＜研究成果の内容＞

紺谷亮一、山口雄治の日本隊は、フィクリ・クラックオウル（キュルテペ遺跡発掘隊長）らの支援を受けて、西アジアにおける多様な都市誕生要因を探るために、2008 年からトルコ中央部に位置するキュルテペ遺跡（トルコ最大級の規模を持つ）とその周辺地域の調査を開始しました。

これは、当地域での本格的な GIS を駆使した遺跡分布調査となり、約 130 遺跡を発見・登録しました。これらの遺跡の環境、時期、規模、分布等を分析した結果、当地域の都市誕生期（後期銅石器～前期青銅器時代）における当地域の遺跡分布パターンは、メソポタミア地域とは大きく異なる事が判明しました。つまり、農耕を主体としたメソポタミア地域における都市誕生の要因とは、異なるメカニズムが存在した事が示唆されます。実際、キュルテペ周辺は平地が少なく農耕には不向きで、冬にはかなりの降雪があります。では、キュルテペはなぜこれ程、大規模な都市に成長したのでしょう。現段階では、仮説ですが、遺跡踏査時に発見したスズ鉱山関連遺跡の存在から、主として鉱物等希少資源の交易によって都市社会が誕生する可能性を提示しました。

2015 年からは、都市誕生のプロセスを考古資料から具体的に明らかにするために、キュルテペ遺跡の北・西・中央部に調査区を設けて発掘調査を開始しました。そして、ついに 2021、2022 年にこれまで学界で「暗黒時代」とまで評価されてきた当地域の後期銅石器～前期青銅器時代の文化層を確認しました。特に中央調査区において紀元前 3300 年前後の大規模建築址を検出したことは注目に値します。これはトルコ中央部最古の事例になるとともに、トルコにおける都市誕生の時期がメソポタミアと同様の時期まで遡る可能性を示唆するものです。

＜社会的な意義＞

これまで西アジア地域の都市化は、大規模な食料生産を背景として成立したと考えられてきました。しかし本調査の成果は、西アジア地域の中においても都市化の要因が単純ではなかったことを示します。都市化のプロセスは多様な展開をしてきたことが想定されます。歴史的背景が違う中で誕生した都市間は常に緊張状態にあるとも言えます。そして、現代社会の混迷は「都市文明の衝突」とも言えます。我々の研究が「未来の都市文明」を占ううえでの試金石となることを願いつつ、今後も調査を続けていきます。

■論文情報

論 文 名：Discovering the Late Chalcolithic Period at Kültepe: Excavation of the Central Trench (2021-2022)

掲 載 紙：Subartu（採録決定済、2023 年刊行予定）

著　　者：Fikri Kulakoğlu, Ryoichi Kontani & Yuji Yamaguchi

■研究資金・謝辞

本研究は、日本学術振興会科学研究費（JSPS 科研費 JP24401034、JP20K01097、MEXT 科研費 JP21H00009）、ノートルダム清心女子大学研究助成金、RIDC 共同研究、公益財団法人髙梨学術奨励基金、公益財団法人三菱財団、公益財団法人福武財団、（株）パレオ・ラボの支

援を受けて実施しました。

図 1　約 5300 年前の大規模建築遺構(©Kültepe Expedition Archive)

＜お問い合わせ＞
ノートルダム清心女子大学
教授　紺谷　亮一
（電話番号）086-252-3207
(博物館準備室)

■教員紹介データベース　紺谷亮一（大学 Web サイト）
https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44200

■researchmap　山口雄治
https://researchmap.jp/7000024924